

【教えてブリヂストンさん
タイヤが知ってる今回のレース】
Rd.5 オートポリス編



©RACING NEWS formula

牧野：寺西さんお疲れ様です。今日も決勝レース時の路気温から教えてください。

えっと、レース前が気温26℃に路面37℃、スタートが25℃/36℃、レース開始1時間後が25℃/35℃、終了時は気温24℃・・・路面30℃・・・。

寺西さん：いやいや最後は23℃/30℃だね。なんか疲れてるね。

牧野：すみません、今日はずっとモニター見てるだけだったので首が痛いんです。でも、なにか動き出すかも、といつもよりもタイムを注視していたからその分疲れちゃいました。

寺西さん：動きはなかったねえ・・・。

牧野：寺西さんにお話し伺った後にエンジニアさんにもお話訊きに行く予定なんですけど、今日は何を訊けばいいのかわかりません（涙）。

寺西さん：ピットインがないからエンジニアさんもすることほとんどなかったね。アンドレの最後のペースアップは指示が出たわけではないみたいね、自分で判断して行ったらしい。タイヤもガスも大丈夫だって分かったらガンガン走り出しちゃったみたいだね。東條さんが俺は何も言っていないよ、って言っていた。

牧野：今回のレース、無給油でピットインがないのでタイヤも1セットで220km走りきるレースになりましたが、レース終えてみて、タイヤはどうでしたか？

寺西さん：最初は路面ができていなくてきつかったみたい。一貴も前半は辛かったって言ってたしね。でも、徐々にゴムが乗り出して、路面が出来上がってからはグリップしていたみたい。

山本君はたぶんセット側の問題だと思うけど、ここでは通常、左の外側からタイヤは摩耗していくのだけれど、本人曰く、よれずに削られている感じだったと言っていたね。だから、最初はドアンダーだったと。

牧野：決勝前にあった2輪のレースの時のゴムが路面に影響していたってことでしょうか？

寺西さん：それもああるね。だけど、徐々にうちのゴムが乗り出してからは問題なく走ったと言っていた。一番心配だったのはジェームスで、決勝で履いたタイヤは、予選でタイムアタックしていない新しめのタイヤだったのに、レース前の状態は他のドライバーのタイヤと比べてあまり良くなかったんだよね。ゴムヘリはついてるし、ささくれとまではいなくても肌はよくなかった。でも、レース後にジェームス訊いたら、彼も全然問題ないって。タイヤの肌を見ても、レース前の時よりもきれいで全然荒れてなかった。

コースにゴムが乗り出すと、肌はきれいになっちゃう傾向があるのね。ゴムとゴムが削りあうんじゃないくて、ゴムの上にゴムが乗っかっていくから肌はすごくきれい。ゴムが乗ってる分、摩耗もそんなひどくならない。そういう意味ではちょっと楽なレースだったかなと。

牧野：これが燃費レースじゃなければ違っていたってことですか？

寺西さん：うん、きつかったかも。路面温度も最初の37℃から徐々に落ちていったしね。これ

も40℃とか50℃とかになっていたらタイヤも辛かったかも。

牧野：土曜日は曇り空で気温も路面温度も上がりませんでしたからね。でも、日曜のお昼頃から太陽が出てきて気温も上がって、面白くなりそうなお天気だったんですけど・・・。

※予選日の路気温（気温/路面）

Q1（22/27℃）、Q2（22/29℃）、Q3（23/30℃）、終了後（23/29℃）

寺西さん：だったね。これがほんとにピーカンで路温が40℃まで行ったら、なかなかドラマもあったかもしれないね。

牧野：富士ともてぎと2戦連続、天気が邪魔しすぎちゃった分、今回はおとなしくしちゃったんですかね。

寺西さん：おとなしすぎた分、レースに動きが無くなってしまったけどな。

ま：次のレースもみんな、今回履いたこのタイヤでレース走りましょうよ。そうすれば、タイヤマネジメントの差がはっきりでますよね（苦笑）。

寺西さん：もう一回このタイヤでやれって（笑）。菅生も、左がきついんだよね。最終コーナーからあがってくるところが一番きつい。

牧野：ドライバーさんもコクピットの左側にパットを入れて負荷を抑えるようにしていますよね。

寺西さん：あそこは相当きついから、左フロントは要注意なんだよな。

牧野：オートポリスよりもきついですか？

寺西さん：きついと思う。

牧野：毎戦毎戦、タイヤにドラマが起きるのを待っているのですが、なぜかいつも持越しになってしまっているんですね（涙）。次の菅生こそは、ピットストップがあるし、天気も雨が降らなければタイヤにドラマが生まれる確率が高いですよ。

寺西さん：路面的にはAPのほうが良くないのね。で、コースレイアウト的には菅生の方がつらい。低速なんだけど、左に使う量が多くてその分左側のタイヤの肌が荒れやすい。でも、結構ゴムも乗るしな、あそこは。

牧野：どんなレース展開になって、レース後のタイヤたちがどんなお顔になって帰ってくるか楽しみにします。

寺西さん：うちから提案したんだけど、来年はニューを3セット、ユーズド2セットでレースをやりましょうっていう話をしているのね。

牧野：タイヤのコンパウンド自体は変えないで、このタイヤでセット数を減らすということですか？

寺西さん：今のところはそういう風に考えている。それかJRPの方から、タイヤをソフトめにして落ちるのを早くさせたらとという話はあるのだけれども。でもねえ、タイヤが垂れました、垂れましたって言われるのもねえ・・・それは問題だし。

牧野：これだけ走ってこんだけのことをやったからタイヤが垂れましたよ、って理解しやすくなればいいんですけど。

寺西さん：わかってくれればいいのだけれど、タイヤが垂れました～、って実況で言われたりしたら、それはちょっと一って、放送室に殴り込みに行かなくちゃいけないよね（苦笑）

牧野：最初から言えばいいですよ。これはスーパーフォーミュラのためにわざと垂れやすくしてある特別なタイヤですって。でも、市販車は全く違って安全長持ちですよって。

寺西さん：それが難しいところなんだよな。たとえばインディみたいに、ソフトタイヤを1セット持って、っていう風にできればいいんだけど、全体的な予算を考えると難しいね。できる

だけのことはしようとは思いますが。

牧野：タイヤを2種類にしてしまうと予算がかかりすぎてしまうのでしょうか？

寺西さん：予算というよりも、在庫がすごいことになっちゃうからその辺の管理も大変なんだけどもね。

牧野：そういう状況の中ではタイヤのセット数減らして、使い込んだタイヤでどれだけ頑張るのかっていうレースも見てみたい気がしますけど。

寺西さん：昔のように湯水のようにタイヤを使える予算とかあればいいけれど、それこそ僕が最初にレースをやりだしたころはF2とかだったけど、予選専用タイヤって言って、1ラップしか持たないようなタイヤとか作ってたもんね。

牧野：ふむう……。作るべきは、レースが面白くなって、市販車の販売は影響なく売れるタイヤってことですね。どんなタイヤがいいのかな……。寺西さんありがとうございました、2週間後もよろしくお願いいたします。